

7代利兵衛は二男清治を分家させるに当って、200両を医学校に献金して、彼を金上待〔かねあげさむらい〕とし伊藤家を再興させた。清治の二男が清次郎で、宮城紡績会社役員・宮城紡績電燈株式会社の社長などとなり、仙台市会議員にも当選した。菅克復らとともに電気事業には特に力を尽した人で、自ら「電狸」〔でんたぬ、電気狸の意〕を号した。彼はすぐれた記憶力と広い見聞をもとにして「仙台昔語電狸翁夜話」（大正14刊）を述作している。この書は、郷土史を研究する者にとって不可欠のものとなっており、土屋喬雄〔仙台出身〕や本庄栄治郎の日本社会経済史に関する著作にも、資料として利用されている。昭和13年11月13日歿、83才

宮城県図書館のすぐれた特別集書に「小西文庫」と称するものがある。これは、昭和10年伊藤清次郎の80才高齢記念として、小西家11代の利兵衛が、同家在来の蔵書に加えて伊達家の医員で文人だった飯川勤〔寥廓と号し、伊達慶邦夫人の侍医。蔵書家として著名。明治35年5月30日歿、65才、燕沢善応寺に葬る〕の旧蔵書を買入れて整理したものである。歴史・医書・詩文・郷土資料など、悉く稀本・良書・善本といわれるものの集成で、きわめて保存がよく、1,619部4,431冊から成っている。「伊藤清次郎翁八十歳高齢記念小西文庫」と称して、小西家に秘蔵されていたものを、戦後一括寄贈されたものである。

注(6) 当時の物価は、米1俵4円50銭、石油1罐2円位で、10燭光1燈で1円24銭を支払えるのは、一部の階級に限られていた。大正元年には10燭光85銭となった。ちなみに、昭和44年度の消費者米価は1俵8,256円である。

資料 東北地方電気事業史（東北電力株式会社）

仙台昔語電狸翁夜話（伊藤清次郎）

続仙台風俗志（鈴木省三）

仙台市電気事業史（仙台市）

仙台市史第3巻

続東北開発夜話（岡田益吉）

## 12. 松島パークホテル

問 建築史の勉強をしているものですが、国立公園松島のパークホテルについて、次のことを教えてください。

1. 建築の設計をオーストリア人ヤン・レツルに依頼した経緯
2. ホテル建築の工期・工費・建設位置

3. 建築の特色。
4. 同ホテルの現状。

答 まず、御来書に「国立公園」とありますが、松島は国立公園法による国立公園ではなくて、文化財保護法により指定された「特別名勝」です。同時にまた、宮城県の県立自然公園条例により指定された「県立公園」なのであります。

さて、宮城県は、明治44年度から大正4年度までの5ヶ年継続事業として、25万2千8百余円の県費を投入して、松島公園の大規模な総合整備事業を実施しました。当時、外人観光客が日光以北に足を向けなかったのは、完備したホテルが皆無だったためでした。そこで、この整備事業の一環として、県設ホテルを新設して、外人を誘引することとしたものであります。県では、大正2年落成の際、パークホテルと命名し、東京築地の精養軒と賃貸借契約を結んで、同年8月15日を期して営業を開始しました。

お尋ねの事項について、

1. レッセルに設計を委嘱するに至った事情について、記録された図書資料は全く見当たりません。ただし、建築位置については、斯界の成功者箱根宮ノ下富士ホテル及び日光金谷ホテル主人の意見を徴して決定しています。また、建築の内部構造については、レッセルをして東京精養軒主と合議させています。このように設計者と先進ホテル業者との協力関係については、或る程度知ることができそうですが、レッセル推薦のことについて関連があったかどうかは不明です。
2. 明治45年4月起工、大正2年竣工。建築費総計47,733円85銭9厘。松島町松島海岸の観瀾亭南方の低湿地を埋立造成して敷地としました。
3. 建坪120坪余、延坪約380坪。地階共3層の上に2階の塔屋（六角形）を設け、外観は日本式素木造〔しらきづくり〕斗拱組〔ときょうぐみ〕、高欄及び濡縁をめぐらし、入口と窓額縁は火燈形で、屋根は入母屋造りスレート葺き。塔屋頂上に避雷針付き九輪を装置。内部は洋風で、松島の景観によく調和した建築でした。

また、電力は仙台市営から供給を受けるので、電気系統は仙台市電気部が完全に装置し、室温調節のためには冷温水による冷暖房を完備するなど、当時においては最上の附帯設備を施しました。

4. 昭和20年の終戦直後、仙台進駐米軍司令官ライダー少将の宿舎として接收され、内部は相当の模様替をされたが、外部は殆どそのままの状態に保たれました。昭和26年接收解除後、県から仙台観光株式会社が借受け、外人用ホテルとして営業中、昭和44年3月2日夜半ボイラー室から出火して全焼してしまいました。

注(1) 明治41年、松島湾一帯の国有に属する島嶼岬崎および林野171ヶ所371町歩が公園地となったのを契機に、翌42年県は松島公園経営案を作成し、43年3月設置した松島公園経営協

議委員会に附議して成案を得た。同年の県会は5ヶ年継続35万円（後に減額）の支出を可決したので、44年度からこの観光開発事業が開始された。

注(2) 各室の配置は次の通りである。

地階（ボーイ室・貯蔵室・調理室・厨房室・浴室・暖房室・トイレ）

1階（応接室・脱帽室・事務室・帳場・図書室・食堂2・酒場及び玉突場・喫煙室・婦人室・露台4・トイレ）

2階（寝室13・浴室2・トイレ3）

3階〔塔屋〕（展望室）

4階〔 〃 〕（ 〃 ）

資料 松島公園経営報告書（宮城県内務部）

松島町誌第2版

宮城県史第16巻

緑化の宮城行幸啓誌（宮城県）

### 13. 昔県北地方に降った赤い雪

問 昔、県北地方に赤い雪が降ったことがあるというが、いつのことですか。

答 旧記から拾ってみますと、次のようです。

天平14年〔742〕1月23日〔新暦3月8日〕黒川郡以北11郡平地2寸赤雪降る。

延宝5年〔1677〕1月13日〔新暦2月14日〕胆沢・江刺・玉造・加美諸郡に赤雪降る。

元禄5年〔1693〕12月10日〔新暦1693年1月15日〕加美郡に赤雪降る。

安永4年〔1775〕2月7日〔新暦3月8日〕江刺郡に紅雪降る。

なお、赤とか紅とあるのは、日常生活用語として赤い犬とか赤土とかいう場合の色で、色彩としての赤や紅ではありません。昔は、このような現象は確かに天変地異の一つとされたものです。しかし、これは今日でも春先に見られる黄砂現象で、たまたま雪に混って降ったため、特に目立ったのであって、裏日本の雪国などでは決して珍しいことではありません。<sup>(1)</sup>

注(1) 中国北部の黄土地帯では冬期間、極端に雨が少ない。春の日ざしが強まるにつれ、黄土の表面が乾燥して飛散し易い状態になる。ここに寒冷前線が通過すると、強風によって黄土の砂塵が上空に巻き上げられ、4～5キロ上空のジェット気流に乗って日本列島上空に達し、ゆっくり降下する。この現象、降下する微粒の砂塵を黄砂という。そのまま降下すれ